

トリニダード・トバゴ（TT）月間情勢報告
(2019年1月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- ローリー首相は、TT経済の現状を説明し、公的債務のGDP比は下がり、エネルギー生産、輸出も増えるなど上向きなことを強調した。
- ベネズエラ情勢に関し、マドゥーロ大統領の就任式にモーゼス外務大臣が出席したことを政府は主権国家の判断、関係国にも伝達済みと説明。当地米大使は、TT政府がマドゥーロ政権を承認したことを批判する声明を発表。ローリー首相はカリコム代表団の一員として国連事務総長他と会談し、内政不介入、不干渉の原則を貫くと説明。
- 9日、岡田前大使が離任し、16日、平山大使が着任、22日信任状捧呈を行った。

2. 内政

- 4日朝、TTでマグニチュード4.6の地震が発生したが、被害などはなかった。
- 14日付当地紙は、グリフィス警察長官指揮の下、48時間にわたる取締強化作戦を実施した結果、138人を逮捕した他、盗難車、違法銃器、薬物などを押収したと報道。
- 15日付当地紙は、ISIL戦闘員となったTT人の妻及び息子がシリアで拘束された旨報道。
- 24日、TT人漁師5人が海賊に拉致された後、ベネズエラに連行され、合計20万ドルの身代金要求がなされた。（30日付報道）
- 22日付当地紙は、ISIL戦闘員の父親によりシリアに連れ出されたTT人の子供2人が、シリアで母親と再会した旨報道。
- 29日、ポートオブスペイン市ダウンタウンで、白昼に発砲事件が発生し、通行人が流れ弾に被弾した。（30日付報道）

3. 経済

- 6日及び7日、ローリー首相はTT経済の現状につきテレビに出演し、前政権から悲惨な経済情勢を引き継いだが、経済成長促進に努めてきた、現在は公的債務のGDP比も下がり、エネルギーの生産、輸出も増えていると強調した。
- 16日付当地紙は、トバゴ島にリゾート建設を計画していたサンダルズ社は

同計画を白紙に戻すと発表したと報道。

- 17日付当地紙は、インバート財務大臣は、19年第1四半期の政府歳入は天然ガス価格の上昇により、計画より13%増える見込みと述べたと報道。
- 23日付当地紙は、ローカン国営ガス社社長はベネズエラのドラゴン・ガス田からのガス購入開始について、政府は2020年を目標としているが、2020年代早期となる見込みと述べたと報道。

4. 外交

- 10日、モーゼス外務大臣はマドゥーロ・ベネズエラ大統領の就任式に出席した。ヤング情報大臣は、この決定につきTTは独立国家としてベネズエラ政府を承認し、隣国として支援する、この点は米国を含む同盟国にも説明していると述べた。(11日付報道)
- 10日付当地紙は、9日に離任した岡田前大使の離任記事を掲載した。
- 19日付当地紙は、英國を訪問中のヤング国家安全保障大臣一行は、英連邦・国連担当国務大臣などとの間で、両国間の第1回安全保障担当大臣会議を行ったと報道。
- 22日、16日に着任した平山大使は、ウィークス大統領に信任状捧呈を行った。同大使は信任状捧呈に先立ち、モーゼス外務大臣を表敬訪問し、2国間関係等につき意見交換を行った。
- 24日、小野寺衆議院議員（元防衛大臣）は、アンティグア、セントルシア及びセントビンセント訪問後にTTに立ち寄り、当地日本企業関係者との意見交換を行った。
- 25日、モンデロ駐TT米国大使は、TT政府がマドゥーロ・ベネズエラ大統領の正当性を認めたことを批判する声明を発出した。これに対しローリー首相は、外交政策は他国から指示は受けない、内政干渉や介入は禁止されていると反論した。(26日付報道)
- 29日、ローリー首相はカリコム代表団の一員としてニューヨークを訪問し、グテーレス国連事務総長等とベネズエラ情勢等につき会談した。また、同首相は米国国連代表とも個別の会談を行った。帰国後ローリー首相は、今回のカリコム代表団の国連訪問は、ベネズエラへの介入という性急な立場から、熟考と見直しという立場に抑えることができた点で成功であったと述べた。(30～31日付報道)

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。